

四組 三場面

主人公は、父親が家族のことを思い、苦勞して持って帰ってきた見慣れない、海でとれた大きなえびを見て、大きいと思った。しかし、普段はまじめな父がこれより大きいえびがいるなどと珍しく冗談を言つて、おもしろかったのと、えびフライが食べられることがうれしすぎて笑った。

三谷君

主人公は、父親の帰りをうれしく思った。そして、土産のえびフライを見ようとした。盛んに湯気を上げるドライアイスに二度びっくりさせられた後、土産の大きなえびにまた驚かされた。父親は普段冗談を言わないのに、「これは車えびつうえびだけど、海ではもつと大きなやつもとれる。長えひげのあるやつもとれる。」と、信じがたい話をしたので、思わずくすくすと笑った。

古川君

主人公は、父親が家族思いな事や、仕事をがんばっていることに、本当は「ありがとう」といいたいんだけど、なかなか素直に言えなかった。普段はまじめな父親が珍しく冗談を言ったことに驚き、ついつい笑った。

赤座さん

主人公は、眠りを寸断してまでえびフライを冷やし続けてまで、家族のことを思う父親が珍しく冗談を言うから、おもしろかったのもあるけど、楽しく話せてうれしかったから、笑った。

村瀬紗弥さん

主人公は、父親が帰ってきたことをすごく喜んで、父親と話したいという気持ちが強く表されている。また、父親も、家族のことを思い、一生懸命働いたり、ドライアイスのことなど父親の優しさが感じられた。父親は、冗談のつもりでいったわけじゃないけど、主人公には冗談に聞こえてしまい、笑った。

古沢君